

ウポポ  
UPOPO

ウポポ(座り歌/輪唱歌)

アヨロコタン  
(7B) AYORO KOTAN アヨロ村

サタモ  
Satamo 平賀サダ(サダモ)((福満))  
キンコ  
Kinko 沢ギン(キンコ)((鷗川筋))  
ワテケ  
Wateke 鳩沢ふじの(ワテケ)((福満))

...	ホアオカシ hoao kasi	2	...の上で
オシノツ osinot	ホアオランケ hoao ranke	3	いつも魔神が踊って遊ぶ
カイエ[イ] kaye[i]	ホアオカイエ。 hoao kaye	4	行くな、行くな。
アヨロ[ウ] Ayoro[u]	ホアオコタン hoao kotan	1	アヨロコタンの
ミムタラ mimtar	ホアオカシ hoao kasi	2	しもての空地で
オシノツ osinot	ホアオランケ hoao ranke	3	いつも魔神が踊って遊ぶ
カイエ[イ] kaye[i]	ホアオカイエ。 hoao kaye	4	行くな、行くな。

(7A)は二人の輪唱で、匿名のKさんが先唱している。二回くり返したところで、サダモ(平賀サダさん)の pakno ka パクノカ の合図で終了している。

(7B)は、(7A)と同じウポポを、翌年、姉のワテケさんらと三人で合唱(輪唱)したものである。今度はサダモさんが先唱している。途中からの録音なので、二人目、三人目が入った(kouk コウクした)ところはテープに入っていない。二人目は、ふつうは一打ち遅れて続くところを、二打ち遅れている。2回目のなかばで、二人目が ranke ランケ というところ

を **kaye** カイエと言ってしまったのを聞きとがめたサダモさんが、歌うのをやめて注意しているところで終わってしまった。

古いウポポだという。歌詞の意味もよくわからなくなっている。1958年に録音したものが、13年後の1971年に質問したときは、サダモさんは次のように説明した。「天国から気違いの神様が降りてきて、部落の人ら全部気違いになって、はだかになって、歌うやら踊るやら、ものも食わずに夜も昼も。そして踊って踊って踊りつかれて、みな死んでしまった。」

【類歌】同じウポポが、門別町郷土史研究会『沙流アイヌの歌謡』（テープ、門別町教育委員会所蔵）、NHK『アイヌ伝統音楽』Nos. 25, 26 (p. 42-44) に収録されている。なお、『知里真志保著作集 2』p. 82, p. 268に、アヨロコタンのウポポの筆録 2 編がある。それぞれに、異なった解釈や説明がつけられている。

ポーランドのピウスツキが今世紀初頭に録音して残したろう管にも、これと同じ歌詞、同じメロディーの歌が入っている。ただそこでは輪唱ではなく、一人で歌っている。エジソンの蓄音機での録音だから、車座になって輪唱するものの録音など、どっちみちできなかった時代である。1980年代になって、健在の古老方にきいてみたところ、この歌を知っている人はいなかった。ただ一人、沙流川の川上の方の下荷負の木村キミさんが、さらに上流の長知内(おさちない)のフチ(おばあさん)から聞いたウポポ だと言って、同じメロディーを次のような歌詞で歌っていた：

アヨロ[ウ] ソアオ コタン  
Ayorof[u] soao kotan

ミムタラ ソアオ カシ  
mimtar soao kasi

オシノッ ソアオ コタン  
osinot soao kotan